

災害時の備えについて

(質問) 災害時に住民主体で避難所を開設できる、オリブボックスの周知と活用促進、内容改善を求める。収容避難所である武道館について、トイレトレーラーの導入、トイレの洋式化、エアコン設置、階段手すり設置など、利用しやすい環境整備への見解を問う。

(答弁) 地域の集会所などで設備の要望があれば自主防災組織活性化事業補助金を活用した整備の協力を考える。避難所環境の改善が必要であることは認識している。施設管理者と協議し避難所環境改善に努める。

その他の質問 ○学校給食の提供



街の賑わいと文化・スポーツ振興について

(質問) (1)市民参加の恒例行事①シティマラソンの今後の展望は②指定管理者による運営効果は(2)F1開催①2030以降の開催推奨のための取り組みは②地域住民の困りごとへの対策は。

(答弁) (1)①来年の30回記念大会に向け特別な催しを検討中。本市スポーツ行政の核と位置付ける②文化施設のロビーコンサートなどの新しい取り組みなどにより利用者増(2)①交通アクセス整備、宿泊施設不足の対策や渋滞緩和を強化②交通渋滞、ゴミやトイレ問題など環境負荷などの改善に努める。

その他の質問 ○子どもを取り巻く安全対策



「老後ひとり難民」問題について

(質問) ひとり暮らし・老夫婦だけの高齢者世帯、低い年金額で生活保護基準を少し上回る方々は、一旦倒れたり入院したりすると、たちまち生活が困難になる。日常生活への支援など、総合的な体制づくりを求める。

(答弁) 高齢者の生活上の不安や孤立のリスクに対応できる地域包括ケアシステムの構築、その中核であり、身近な相談窓口となる地域包括支援センターをはじめ、切れ目のない支援体制の整備に努めている。

その他の質問 ○交通事故防止対策
○青少年の森公園



保育の充実について

(質問) 保育士が専門性を発揮し、やりがいを持って働き続けられるよう、1歳児の配置基準を加算対応ではなく、市独自で5対1へ基準を改善すること。また処遇改善と一体で進め、公私間格差の解消を求める。

(答弁) 配置基準は、3歳児は15対1、4歳・5歳児は25対1に、9割以上の施設で新基準に改善。1歳児の配置は、国に先行し加算・補助金で対応し、保育人材確保の支援をしている。5対1の配置の徹底と定着を図る。

その他の質問 ○歩行者の安全 ○障がい者医療費の助成



まちづくりについて

(質問) 地域づくり協議会へ支給されている一括交付金の使途の確認について尋ねる。

(答弁) 当該年度の交付対象事業が完了次第、地域づくり一括交付金事業完了報告書の提出を受け、その内容を精査し、適正に使用されているか確認している。また、一括交付金の使用に係る基本的な考え方を示した資料を各協議会に配付し、相談や問い合わせに対しては、職員が適宜支援を行っている。地域の自主性を尊重しつつも、公金である以上、適正な執行を確保する必要があると考えている。

その他の質問 ○交通ルール



鈴鹿亀山地区広域連合の今後の在り方

(質問) 介護報酬の地域区分再編に伴う単価下落と介護倒産危機を指摘する。地域区分8%への引上げ交渉か、市独自のインフラ維持支援金を創設して福祉基盤を守る決断が必要である。

(答弁) 地域の高齢者を取り巻く状況の変化を踏まえて、本市の高齢者が、住み慣れた地域で、いかに自分らしく生きられるかを最優先の課題として捉えている。今以上に介護予防事業に重点的に取り組むなど、地域の実情に合わせた事業の推進を図るため、亀山市と協議を継続する。

その他の質問 ○鈴鹿市における空き家問題

